

▼スパニジン点滴静注用 [注]

【重要度】 【一般製剤名】グスペリムス塩酸塩 *gusperimus hydrochloride* 【分類】免疫抑制剤

【単位】▼100mg/V

【常用量】3～5mg/kgを連続7日間投与 [病態に応じ10日間] 反復投与時は2週間以上の間隔をおく

【用法】3hrかけて点滴静注。注射用水、生食または5%ブドウ糖注射液で溶解し、更に100～500mLの生理食塩液又は5%ブドウ糖注射液で希釈。

【透析患者への投与方法】減量して慎重投与 (1) 透析後に投与 (1)

【保存期 CKD 患者への投与方法】減量して慎重投与 (1)

【特徴】細胞傷害性Tリンパ球の前駆細胞から細胞傷害性Tリンパ球への成熟及び細胞傷害性Tリンパ球の増殖を抑制することによって拒絶反応の進行を妨げ、活性化Bリンパ球の増殖又は分化を抑制することによって抗体産生を抑制。リンフォカイン産生の抑制作用、抗炎症作用などを有さないことから、CyAやステロイドの作用機序とは異なる。核酸合成の阻害作用や殺細胞作用を持たない。

【主な副作用・毒性】骨髄抑制、呼吸抑制、進行性多巣性白質脳症、ウイルス感染症、顔面しびれ感、消化器症状、肝機能検査値異常など

【代謝】肝代謝を受け、アミノキシダーゼが関与すると推定 (1)

【排泄】尿中未変化体排泄率4～12% [iv, 24hr まで] (1) 尿中回収率74% [iv, 24hr まで] (1)

【CL】1.68mL/min [ラット, iv] (1)

【t1/2】α相12.6 min. β相6.45hr [ラット] (1)

【蛋白結合率】22.4% (1)

【Vd】0.9L/kg [ラット, iv] (1)

【MW】496.90

【透析性】透析膜を通過する (1)

【OW 係数】油相には分配しない (1)

【主な臨床報告】作用機序と臨床適用のレビュー (Perenyei M, et al: *Rheumatology (Oxford)* 53: 1732-41, 2014 PMID: 24501242)

【更新日】20160116

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。